

Ⅲ. 平成28年度 ベルアルト 事業計画

中期事業計画

10 年基本方針

地域包括ケアを担う地域リハビリテーション拠点施設として、パートナーが満足のいく在宅生活を支援する。

中期ビジョン

老健施設の本来の機能(リハビリテーション・在宅復帰・在宅生活支援)を徹底追及し、地域の高齢者の自立と安心を支える役割をはたす。

中期戦略

(1) 在宅復帰の促進と、復帰後の在宅総合介護サービスの充実(質・数ともに)

- ア) アウトカム評価を意識したリハビリテーションの実施。
- イ) 通所リハビリテーション機能のパワーアップで堺市No.1へ。
- ウ) 短期入所受け入れの促進。

(2) 地域への社会貢献の拡充

- ア) 近隣医療機関との連携を強化。
- イ) 認知症の予防や啓発活動の推進。
- ウ) 困難事例ケースを積極的に受け入れる。

(3) タウンは1つ、さらなる協働で成長をめざす

- ア) 老健・特養、通所リハビリテーション・通所介護が一体となり、パートナーへサービスを協働で提供する。
- イ) 幼保連携型認定こども園との世代間交流を深める。

平成28年度 事業計画

1. 平成28年度基本戦略

ベルアルトは、老健施設の使命を明確にし、在宅復帰・在宅生活支援に重点をおく。パートナー個々のニーズに合った「オーダーメイド介護」を行い、複合型施設の強みを活かした在宅総合介護サービスを充実させる。

地域医療機関・居宅介護支援事業所・行政との連携を確立し、パートナーが幸せな在宅生活を送れるように、社会福祉法人としての責務もはたす。

2. 重点活動事項

(1) 利用者獲得

- ア) 近隣医療機関へ営業活動を行い、さらに新規パートナーを確保する。月間目標値は、入所13名(短期を含む)、通所は8名以上とし、登録パートナー数を増加させる。
- イ) 「パートナー集客プロジェクト」(仮称)を立ち上げ、下記項目を実行する。
 - ・空床防止の徹底。短期入所の空床は4日までとする。
 - ・居宅介護支援事業所とさらに連携し、集客ターゲットを絞った営業活動。
 - ・パートナーのニーズに合った「オーダーメイド介護」プランの策定。
 - ・短期入所、通所のアクティビティを充実。
- ウ) 緊急短期入所、新規利用依頼をスピーディーに受け入れる。
- エ) 老健・特養、通所リハビリテーション・通所介護の一体運営による強みを活かし、パートナーの受け入れを促進する。
- オ) 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所から、困難事例ケースを積極的に受け入れる。

(2) サービス

- ア) 通所短時間利用パートナーの受け入れを促進するために、業務体制を見直す。
- イ) 社会参加に繋がるサービスを提供する。
 - ・生活行為向上に焦点をあてたりハビリテーションの実施。
 - ・パートナー参加型の学習教室を開催。

- ウ) パートナーの在宅生活を支援するために、リハビリテーションを兼ねた外出支援を行う。
- エ) パートナーの身体・利用状況を分析し、ニーズに合った通所リハビリテーション・通所介護を提供するため、ケアプランを見直す。
- オ) 「食」の楽しみを充実し、栄養指導・相談を積極的に行う。
- カ) 在宅復帰率70%以上を目標とする。
- キ) 在宅復帰が円滑にできるように、入所時・退所前後訪問を積極的に実施する。
- ク) ユニットケアの質を高め、「オーダーメイド介護」サービスを提供する。
- ケ) 在宅復帰の促進となるように、パートナー自力での排泄に向けた取り組みを行う。
- コ) 認知症介護実践者・リーダー研修の受講、介護支援専門員・認知症ケア専門士などの資格取得を推進する。
- サ) 認知症の予防や支援活動を行い、普及啓発に努める。
- シ) 出張栄養指導教室を開催し、高齢者の健康増進に寄与する。

(3) コスト

- ア) リハビリテーションマネジメント加算Ⅱのさらなる取得。平均月間目標値を5件以上とする。通所パートナーの卒業システムを確立させ、社会参加支援加算の取得に繋げる。
- イ) 協力歯科医院と連携し、口腔ケア・摂食嚥下機能の向上をはかる。誤嚥性肺炎の予防に努め、入院率の低下に努める。また、経口維持加算Ⅰ・Ⅱの算定を増加させる。
- ウ) ケアの統一・可視化、マニュアル・業務内容の見直しを行い、経費削減・利益確保に努める。
- エ) 部門別損益計算システムを導入し、予算に対しての実績管理を徹底する。

(4) 組織人材

- ア) 各部門に「事業計画活動進捗状況シート」を導入。PDCAサイクルの実態を把握・分析・改善をし、事業計画を達成する。
- イ) 多職種連携で、パートナー個々のゴールを明確にし、在宅支援フローを活用したカンファレンスを日々開催する。
- ウ) 重介護・医療ニーズに応える医療知識・介護技術を向上する。
- エ) 入所と通所間のジョブローテーションを行い、施設と居宅両方のケアができるスタッフを育成する。
- オ) 介護・看護キャリアパスプログラムに基づいた教育の実施。

